
ぼくの家出の理由と俺のその後

或加奈

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ぼくの家出の理由と俺のその後

【Z-コード】

Z3928A

【作者名】

或加奈

【あらすじ】

これは俺の経験した実話です。幼い頃から2005年に18になつた今まで、そして今年2006年に19になるこれからをゆつくり過去から現在まで日記形式で書いていきます。終わりは見えませんがよろしく。幸せになりたいです。追記：途中でしばらく更新しなくなつてもそのうち更新します

投稿一度目（前書き）

なるべく事実に忠実にするために当時の自分で書きます。そのため
に不足する部分は後書きで書きます。

投稿一度目

1990 月 日

ぼくは三歳だった、ままはぼくに掛け算等を教えて出来ないと殴つた。

でも、ぼくが出来ないから仕方ない。

頑張った。

1991 月 日

ぼくは冷蔵庫の一番上が届かないから、下の引き出しを少し開けて
ふちに登っていた。

いつも大丈夫なのに今日は倒れちゃった、ビニールも痛くないけど中身
が出来ちゃった怒られる。

怖い
怖い怖い
怖い怖い
怖い怖い
怖い怖い
怖い怖い
怖い

怖い怖い怖い
怖い
怖い怖い
怖い怖い怖い
怖い怖い
怖い怖い
怖い

パパに電話して、事情を話すとすぐ来て直してくれた。

パパ大好き。

でも、夜のお仕事から歸つて来たままぼくをねじつた。

ぱぱが直してくれたけど中身が違ひ「こ、ぼくは怖くてぱぱがきて冷蔵庫を倒したつて嘘をついた。

「そりなんだ」

ままはそういうと寝なさいとぼくに言つた。

怒られなくて良かつた、ぱぱ「めんなさい。ぼくを嫌いにならないで

1991 月 日

じつそりぱぱに本当の事を言つたら、許してくれた。良かつたです。でも昨日勉強が余り出来なかつたから、ままはぼくが幼稚園を大好きなのを知つていて行かせてくられません、また殴られる。

やだやだ

やだやだやだ

やだやだやだやだやだ

やだやだ

やだやだやだやだ

やだやだ

やだやだやだやだやだやだやだ

もつもつ

1992 月 日

今日からおじいちゃんとおばあちゃんの家に歸ります。
ままの実家です。

やぐやをしているぱぱが歸れと言つました。

最近の抗争は狙つた相手の家族を狙うからと言つていました。

でも幼稚園よりおじいちゃんもおばあちゃんも優しいから好きなの

で良かつたです。

ついたらぼくの大好きなご飯を用意して待つてくれるやつです。
楽しみです。

投稿一度目（後書き）

投稿する時ジャンルがよくわかりませんでした、勝手に審査して決めてほしかったです。ああ、この文章に腹を立てられ放置されたくないです。わからないところはメールください、質問が多いのは掲載します。他は個別に答えます。

投稿一覧

1992 月 日

おじいちゃん達は優しいです、新しいスーパー「マリノ」のソフトを買つてくれたり、家の前の公園で遊んでくれました。夕飯はぼくがお寿司が大好きだから太巻きと一緒に作りました。ままはぼくよりうまいけど下手です、でも具はぼくの好きなものばかり。

ぼくも好きなものばかり入れました。でも入れ過ぎて巻くのが大変でした。

おばあちゃんはきゅうりとか野菜もいれます、綺麗だけど嫌いのはいやです。

ままがこつそりぼくをつねつて食べなさいと言います、怖いので食べました。ままが怖くておいしくなかつたです。言われなくても食べるのに

7

1992 月 日

ままが勉強しようかと笑顔で言いました。

おばあちゃん達はうちにいる時ぐらいい遊ばせてあげたら良こじやないかと言いました。

だからぼくは言いました。

「おばあちゃんの家にいる時ぐらい、勉強したくないよ。まま」

叩かれました。

おばあちゃん達はびっくりしてました、ままは無言でぼくを部屋に連れていくとバックから問題集を出しました。

持つて来ていたみたいです、笑顔でやりなさいと言いました。

ぼくはこわくて頷きました、はいと殴られました。はいと泣きながらぼくが言つと満足そうに問題集を広げました。ほつべが

痛いです。

1992 月 日 今日も朝から勉強すると言われました、一晩は
おいしくなかつたです。

部屋に行くと問題集は昨日のままでした。

ここからここまでと、10ページ程言われました。

制限時間は15分です、出来るわけないです。

時間内には3ページしか終わりませんでした、殴られました。

5分で終わらせないとまた殴ると言いました。

結局40分かかりました、体中痛いです。

でも勉強は夕飯まで8時間続きました。

泣きすぎて夕飯は大好きな唐揚げだつたのにまずかつたです。

でも笑顔でおいしいと言いました。

ぼくを助けてくれるのはぱぱしかいない。

1992 月 日

朝ご飯を食べてると今日はおじいちゃんがお風から遊園地に連れて行つてくれると言いました。

楽しくご飯が食べれました。

でも、ご飯が終わるとまちはお風まで勉強しようつと言いました。
ぼくは今日ぐらいいやりたくないと言いました。

馬鹿なんだから勉強しなさい、何でもあの気持ちがわからぬいのと
まちは泣きながら殴りました。

きっとぼくの為だつたんですね。

わからなくて「めんなさい」「めんなさい」「めんなさい」「めんなさい」「めんなさい」「めんなさい」「めんなさい」「めんなさい」

幾ら謝つても無駄でした。

ぼくの悲鳴に近い泣き声を聞いておじいちゃん達が入つてきました、
やめなせこと言わるとまちはもつと泣いて奇声をあげながら殴り
ました。

ぼくが怯えているとおばあちゃんが庇つてくれました、まちは何も
言わずに出て行きました、怖かつたし痛かったです。

まちが出て行くとおばあちゃんは鼻血を拭いてオロナインとキンカ
ンを塗つてくれました。

少しだけしました。

その後まちは帰つて来なかつたのでおばあちゃんとおじいちゃんと
遊園地に行きました、楽しかつたです。
家に帰るとまちが居ました。

ぼくは怖くて動けないでいると、まちが近づいてきました。

ぼくを抱きしめて「めんね」と笑顔で言いました。

その日は寝るまで優しかつたです。

まちが直つて安心しました。

1992 月 日

今日はままもおじいちゃんもおばあちゃんも優しかったです。

勉強しなさいとも言われるませんでした、嬉しいです。

ぼくがまとお風呂に入ってる間にぱぱから電話があつたそうです。

明日迎えに来るそうです。

みんな優しいから帰りたくないな。

1992 月 日

途中に食べるお弁当を作つています。
ままぼくもお手伝いをします。

やんがつけてくれました。

おおきなうたこおこちうたう

おばあちゃん達にお土産を渡して喋つてたけど、やはり苦笑しそうな顔をしていました。おじいちゃんが嫌いなのかな。

お弁当を食べました。

つたです。

でも、ままは自分で作ったサンドイッチを食べていたので、ほくの作ったおにぎりを渡すとありがとうと言つてつらそうに食べました。お弁当は食べ切れ無かつたので残りは家で食べる事にしました。

帰りはぼくは眠つてしましました。

「何が何だか分からぬ?」と囁くと、彼は黙りこぼした。

ままはまた壊れたかも知れません。

1992
月日

今日はファミリーコンピューターをしていました。
星のカーリーは可愛いです。

途中で眠くてタオルケットで寝ました。さすがに寝ました。

いきなり田が覚めました。

田を開けるとままがファミコンコンピューターのコードでまくの首を泣きながら絞めていました。

苦しい助けてままやめてやめてやめてやめてやめて

や
め
て

や
め

て
や
め

もがきました。

やめてくれました、苦しくてばきばき咳が出て吐きついでました。まほは何も言わずに寝てしまいました。

怖かったです。

投稿四度目（後書き）

首を締められた時は本当に苦しかった。自殺するときは飛び降りがいいなと最近思いましたよ。首吊りは嫌です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3928a/>

ぼくの家出の理由と俺のその後

2010年11月17日14時45分発行